令和5年度 立川市立新生小学校　学校評価計画・報告書

【考察について】
自己評価結果（ABC）や年間を通しての保護者・地域からのご意見、教員からのヒアリング等を受け、来年度に向けた改善策につながるように考察を行います。

【改善策について】
◆来年度に向けて校長が作成する学校経営計画に反映させます。

【重点的に進める目標について】
〇学校が推進することはたくさんありますが、その中で、
◆確かな学力の向上
◆ゆたかな心の向上
◆地域と共に歩む学校づくり
の3つを重点的に進める目標として設定しました。

【成果目標について】
◆学校がどういう成果を目指すのかを、成果目標として示しています。
◆「学力の向上」や「ゆたかな心の向上」の成果目標は、子どもの具体的な能力・態度の向上を目標にしています。

◆取組目標について
〇学校が成果目標を目指して、どういう取組を充実させるのかを、取組目標として示して

【自己評価について】
それぞれの評価項目に関するアンケートを実施して4段階で評価し、そう思う、又は少しそう思うと回答した人（肯定的な評価）の割合が
80%以上をA、70～80%をB、70%以下をCと自己評価します。

【評価方法について】
◆成果目標については、児童と保護者の方に、評価項目に関する調査等を行い、その達成状況を把握します。
◆取組目標については、成果目標の達成状況も加味しながら、
教員自らがその取組状況を評価します。
◆評価は4段階で評価します。

【学校関係者評価について】
◆立川第八中学校区の学校運営協議会の方に記入をお願いする評価です。
◆学校が行う、考察も含めた自己評価の内容に客観性と妥当性をもたせるために行います。
◆自己評価と考察の内容が適切か、来年度に向けて改善策を作成する上で加味する必要がある点があるかなどを評価していただくとともに、感じたことや要望

重点的に進める目標	昨年度設定した改善策の概要		評価項目	評価方法	自己評価結果(%)			学校評価報告 考察	学校関係者評価の概要	改善策
確かな学力の向上		評価項目① 成果目標	**◆課題解決力** 〇課題意識をもつ力 〇根拠を明確にして、考え・表現する力 〇比較・関連付ける力 〇学んだことをまとめ次につなげる力	〇左記に関する保護者及び児童アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。	C 68	C 65	B 75	◆児童及び保護者から、「課題意識をもつ力」は肯定的な回答が7割を超えたものの、それ以外の力は6割台以下であった。 ◆特に「比較・関連付ける力」に関して、肯定的な回答率が低い。 ◆様々なアンケート結果から、「課題解決力の育成」を目指して授業改善や教員の指導力向上に努めてきたが、**確かな学力の向上に結びついているとは言えない。** ◆来年度の授業改善を進めていく上、以下の点について留意し、「根拠を明確にして、表現する力」と「比較・関連付ける力」の育成に重点をおいていく必要がある。 〇すべての教科のベースとなる国語力の向上 〇ICTやデジタル教科書の利活用 〇「比較関連させる場面」や「既習事項の定着・活用」「根拠を明確にして考える学習活動の工夫」の充実 〇楽しく学び意欲を高める学習環境の整備と手だての工夫 〇自らの学びを振り返り、次の学び・行動につなげるまとめ学習の重視 〇本校が目指す「課題解決力」を育成するための、各教科等における重点を置く単元の設定 ◆東京ベーシックドリル（算数）に関して、一学期は昨年度同時期と比較すると、全学年良い結果ではなかったが、朝のパワーアップタイムやタブレットを活用したドリル学習、放課後の「のびっ子」を充実させた結果、同（二学期）については約8～17ポイントアップした。引き続き、基礎学力の向上を図っていく必要がある。 ◆今年度積み重ねてきた立川市民科の学習を一層充実させて、「社会参画力」を更に高めていく必要がある。	◆考察の内容は概ね妥当である。 ◆考察の内容について具体的に実行していくことが重要である。 ◆「根拠を明確にして考え・表現する力」と「比較・関連付ける力」を育成するために、すべての教科のベースになる国語力の向上は必要だと思う。 ◆学力について、保護者・児童による成果目標と教員による取組目標を比較すると、差が大きいと思うので、特に保護者が子どもたちの学力の様子を判断するための材料や教員の授業改善の様子を伝わるための工夫・めやすが必要ではないかと考える。 ◆児童・保護者と教員との肯定的な回答率の乖離に着目すると、両者の判断基準がと統一されていないためと考えられる。 ◆学校が授業改善に取り組んでいることを、授業参観等での子どもたちの様子を通してや授業についての情報提供をもっと積極的にしていく必要がある。 ◆子どもたちが、学力や学習していることが今なぜ必要なのかを学校と家庭が連携して、伝えていき、その必要性を認識していけるようにすることが大切である。 ◆立川市民科によって子どもたちの学習への興味が高まっているように感じた。 ◆自ら問いを立ててとことん掘り下げて改善策を見出すような学習や立川市民科などの教科横断的な学習を充実させるとよいと思う。 ◆子どもたちの社会参画力が高いことなど、HPなどで、保護者にも伝わるような発信を期待する。 ◆子どもたちはいろいろな場面で発表することで、考え自信がついていくと考える。 ◆語いの少ない児童が多く、思考が深まらないケースをよく見かける。	◆本校が推進する「課題解決力」のうち、「根拠を明確にして、考え・表現する力」と「比較・関連付ける力」の育成に重点を置き、以下の点を重視して、学力向上策に取り組む。具体的な方策については、授業研究部、新設する学力向上推進委員会及びICT能力推進委員会が連携して策定し推進する。 ●すべての教科のベースとなる国語力の向上 ●ICTやデジタル教科書の利活用 ●「比較関連させる場面」や「既習事項の定着・活用」「根拠を明確にして考える学習活動の工夫」の充実 ●楽しく学び意欲を高める学習環境の整備と手だての工夫 ●自らの学びを振り返り、次の学び・行動につなげるまとめ学習の重視 ●本校が目指す「課題解決力」を育成するための、各教科等における重点を置く単元の設定 ●企業と連携した、国語の「学力確認テスト（仮称）」の活用 ◆個人面談等の機会を通して、「学力確認テスト（仮称）」の結果等をコミュニケーションツールとして、学校と各家庭が一人一人の状況や、学力向上に向けた取組について共通理解を図る。 ◆学校だより等、HPの活用を通して、子どもの学力や学習の様子、学力向上策の状況について情報提供を行う。 ◆授業参観については、その機会を2回増やすとともに、授業のねらいや大まかな流れ、身に付けさせたい力について事前に知らせる。 ◆新しい組織である、表現力推進委員会において、立川市民科と学級会活動を中心にして、子どもたちの思いや願いを大切にしながら、探究的な活動や自発的自治的な活動の充実を図る。 ◆立川市民科については以下の点から充実を図る。 〇今までの指導計画を見直し充実を図るとともに、カリキュラムマネジメントを意識して、他教科との関連を
				〇左記について、教員を対象として、学年・学級の発達段階や実態に即した取組状況を記述式アンケートを実施する。肯定的な回答を8割以上にする。				◆教員アンケートから、肯定的な回答が9割を超えた。 ◆同アンケート記述欄から、一斉型の授業だけではなく、発表場面やグループ・ペア学習を多く取り入れたが、「比較・関連させる場面」や「自らの振り返りの場面」の設定・工夫が十分でないことが分かった。		
		評価項目② 取組目標	**◆個別最適な学びと協働的な学びを一体とした学習展開の工夫** 〇課題解決型の授業の充実 〇グループ・ペア学習（共有）の重視 〇課題意識（問い・思いや願い）をもたせるための導入の工夫 〇既習事項の定着・活用 〇図表グラフ等の資料の活用 〇根拠を明確にする学習活動の工夫 〇比較関連させる場の設定 〇基本的な学習の流れの徹底 「課題把握－自力解決－学び合い（共有）－まとめ（振り返り）」 〇自らの学びを振り返り、次の学び・行動につなげる学習の重視 ・授業のまとめの時間の工夫　・自己評価の重視 〇基礎学力の確実な定着 ・ベーシックドリルの活用 ・朝学習の活用 〇タブレットを活用した学習の充実 〇デジタル教材を活用した学習の充実		A 95	A 85					
			◆地域に根ざした立川市民科の単元開発の推進		B 93			◆教員アンケートから、肯定的な回答が9割を超えた。 ◆研究発表と関連させて、立川市民科を推進してきたためと考えられる。		
豊かな心の向上		評価項目① 成果目標	**◆自己肯定感を高める力の向上**	〇左記に関する保護者及び児童アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。	B 78	B 76	A 83	◆児童及び保護者アンケートから、肯定的な回答が8割に届かなかった。 ◆同アンケートから、「自分の良さの認識」は同回答が9割前後であるが、「自分の行動や発言に自信」は6～7割台である。 ◆子どもたちは自分の良さについての認識はあるが、そのことが自信にはなっていないと考えられる。	**◆自分の良さの自覚があっても、そのことに自信にもち、具体的な行動につながるまでにはなっていない。** ◆具体的な行動につながるように、自尊感情や自己肯定感を高めるために、今後も引き続き、互いの良さを認め合う場の設定に加え、自分の良さを発揮する場面を多く設定していく必要がある。 ◆児童への指導に当たっては、「認める・ほめる・価値付ける」という3つの段階を踏まえていく必要がある。	◆考察の内容は概ね妥当である。 ◆子どもたちの自己肯定感を高めるためには、学校だけではなく、家庭や地域の力も大きいので、機会をとらえて一人一人の子どもの良さや頑張りを伝えていく必要がある。 ◆自己肯定感を高め自信をもって良さを発揮していくためには、ほめることも重要だが、行動する前の「励まし」が必要であると感じる。 ◆低評価の項目については、子ども同士の遠慮やためらいがあるのではないかと考える。 ◆友達に関するゆたかな心に関してたいへん評価が高いことは素晴らしい。 ◆かぜっ子での子どもたちの様子からも、友達のことを心配する、気にかける等、ゆたかな心をもっている子どもがたくさんいると感じる。 ◆周年行事の子どもたちの発表や明るい挨拶からも、ゆたかな心が育っていると感じた。そういったゆたかな心をもっている子どもたちだからこそ、感動的な周年年行事ができたと思う。 ◆SNS等が影響して自分に自信がもてないことや自己肯定感が低いことも考えられるので、情報リテラシーやモラルの指導も必要である。 ◆子どもへのほめ方については、子どもが実感がもてるようなほめ方が重要である。 ◆どの教員も、うれしかった気持ちを伝える、子どもの頑張りを具体的にほめるといったこと	◆考察の内容は概ね妥当である。 ◆子どもたちの自己肯定感を高めるために、今後も引き続き、互いの良さを認め合う場面や自分の良さを発揮する場面を多く設定するとともに、行動する前の励ましややる気にさせる声掛けを的確に行う。 ◆児童への指導に当たっては、「認める・ほめる・価値付ける」という3つの段階を踏まえる。 ◆8つの「ゆたかな心」のうち、各クラスの課題である「ゆたかな心」に着目し、その解決を図る取組を具体的に設定する。 ◆全校的に課題である、「困っている児童に声をかけたり大人に相談したりする心」を育てることは重要であり、いじめの未然防止にもつながるので、その心を育てるための取組を年3回のふれあい月間と関連させて、校長講話及び全校的な取組を行う。 ◆いじめ防止に向けた取組の推進では、今後も引き続き、保護者と連携しながら、いじめ防止対策委員会を中心に、組織的に取り組む。 ◆本校の状況に即した情報リテラシー及びモラルを設定する。 ◆学校における働き方改革の推進を図りながら、学習指導要領の内容に沿った学力向上・授業改善を図るために、学校行事の精選を図る。
			◆自己肯定感を高める言葉かけの重視 ◆自分たちのよさを自覚し発揮し認め合える場の設定 ◆自分自身を振り返り次につなげていく取組の重視	〇左記について、学年・学級の発達段階や実態に即した取組状況を記述式アンケートを実施する。肯定的な回答を8割以上にする。	B 74			◆教員アンケートから、肯定的な回答が8割に届かなかった。 ◆同アンケートの記述欄から、学級活動や朝・帰りの会を中心に、具体的に良さを認め合う場を設定するようにしているが、十分とは言えないことが分かった。		
		評価項目② 成果目標	**◆8つのゆたかな心の向上** （ほめる・励ます・声をかけ相談する・協力する・謝る・感謝する・見守る・許す）	〇左記に関する保護者及び児童アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。	A 89	A 89		◆児童及び保護者アンケートから、肯定的な回答が9割近くであった。 ◆同アンケートでは「困っている児童に声をかけたり大人に相談したりする」と考える児童の割合が、8割台で一番低くかった。	**◆8つの「ゆたかな心」は概ね育っていると考えられる。** ◆8つの「ゆたかな心」のうち、各クラスの課題である「ゆたかな心」に着目し、その解決を図る取組を日々充実させていく必要がある。 **◆全校的に課題である、「困っている児童に声をかけたり大人に相談したりする心」を育てることは重要**であり、いじめの未然防止にもつながるので、その心を育てるための取組をより一層充実を図る必要がある。 ◆いじめ防止に向けた取組の推進では、今後も引き続き、保護者と連携しながら、組織的に取り組んでいく必要がある。		
			◆学級の状況に即した「ゆたかな心」の向上の取組の充実 ◆いじめをしない・させない・許さない雰囲気・環境・友達関係づくりの具体策	〇左記について、教員を対象として、学年・学級の発達段階や実態に即した取組状況を記述式アンケートを実施する。肯定的な回答を8割以上にする。	A 89			◆教員アンケートから、肯定的な回答が9割近くであった。 ◆同アンケートの記述欄から、ふれあい月間等の学校の取組と関連させて、各学級で工夫した活動を行っていることがうかがえた。 ◆同上の記述欄から、トラブルがあった時は、その状況に即して、担任だけではなく、学年教員や生活指導主任、管理職が組織的に関わり、保護者にも連絡するなどして対		
地域と共に歩む学校づくり		評価項目① 成果目標	**◆保護者・地域との協働体制の強化**	〇左記に関する保護者等アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。	A 93	A 86	A 88	◆保護者アンケートから、肯定的な回答率が9割を超えた。	**◆「保護者・地域との協働体制の強化」に関しては、比較的高い評価をいただいた**ので、引き続き立川市民科の学習等を通して、協働した学習の取組を推進していく必要がある。 ◆さらに、来年度は、「自転車教室」に関して、本校が置かれている地域の実情に即して、保護者や地域関係機関と役割分担しながら、連携・協働して実施していく必要がある。 **◆「保護者との双方向の関係の充実」に関しては、9割に届かなった**ことから、今後は今まで以上に、様々な状況に即して、親身になった直接的なやり取りを重視し、情報連携・行動連携を図っていく必要がある。 ◆さらに、ICTを利活用して、タイムリーな情報提供や意見把握を推進していく必要がある。 ◆保護者・地域のニーズを踏まえて、連携・協働体制を強化し、教育活動の充実を図るため、学校における働き方改革を推進しながら、業務の重点化・焦点化・簡素化をさらに推進していく必要がある。	◆考察の内容は概ね妥当である。 ◆保護者も地域のイベントに参加する方が多いので、肯定的な回答が多いと思った。 ◆これからも地域・学校・保護者のつながりをなくさないように維持していただきたい。 ◆学校は保護者や地域との連携に力を入れていると感じるので、今後の「立川市民科」の展開に期待している。 ◆子どもたちが主体的に活動している過程も分かるとよい。 ◆保護者との直接的なやり取りもたいへん重要である。 ◆HP等による情報発信と面談等による直接的なやり取りの両方向から、保護者や地域の方との双方向の関係を築いていくことを期待する。 ◆学校と保護者（PTA）が協力し合い、その後押しをするのが地域だと考えている。 ◆「双方向の関係の充実」では、学校と保護者・地域のどちらもしっかり取り組む必要性があることを双方が自覚することが大切である。	◆新しく設置する表現力推進委員会を中心にして、以下の点から立川市民科の充実を図る。 〇今までの指導計画を見直し充実を図るとともに、カリキュラムマネジメントを意識して、他教科との関連を明確にする。 〇保護者・地域と連携・協働した学習の充実を図る。 ◆学校における働き方改革の推進を図りながら、学習指導要領の内容に沿った学力向上・授業改善を図るために、学校行事の精選を図り、新しい形での保護者・地域の方を対象にした学校公開の方針・方向性を明確にする。 ◆「自転車教室」は、本校が置かれている地域の実情に即して、PTAや地域関係機関と役割分担しながら、連携・協働して実施する。 ◆今年度から実施している年間2回の保護者個人面談を来年度も継続して実施するとともに、日常的な報告・連絡・相談を含め、保護者・地域のニーズに寄り添い、きめ細やかで親身になった丁寧な対応を心がける。 ◆ICTを利活用して、学校ホームページ等をを通して、タイムリーな情報提供や意見把握を推進していく。
				〇左記について、学年・学級の発達段階や実態に即した取組状況を記述式アンケートを実施する。肯定的な回答を8割以上にする。				◆教員アンケートから、肯定的な回答率が8割であった。 ◆同アンケートの記述欄から、立川市民科の研究発表会を実施したことから昨年度以上に、家庭・地域と連携した取組を推進したことが分かったが、一方でもう少し深められたと考える教員もいた。		
		評価項目② 成果目標	**◆保護者・地域との双方向の関係の充実**	〇左記に関する保護者等アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。	A 84	A 89		◆保護者アンケートから、肯定的な回答率が8割を超えた。 ◆「保護者・地域との協働体制の強化」と比較すると、10ポイント程度低かった。		
			◆学校からの通信や保護者会の充実 ◆ホームページ等の充実 ◆相手の思い・願いや立場を踏まえて親身になった対応 ◆根拠を明確にして説明責任を意識した対応	〇左記について、学年・学級の発達段階や実態に即した取組状況を記述式アンケートを実施する。肯定的な回答を8割以上にする。	A 95			◆教員アンケートから、肯定的な回答が8割を超えた。 ◆同アンケートの記述欄から、児童の状況に即して、保護者の方と連絡帳や電話等で、こまめにやり取りしたという意識の教員が多い一方、連絡・面談等の時間設定に苦慮したとの意見も見られた。		